活用編

もくじ

もくじ **1**

本書をお読みになる前に **4**

1章 パソコンの機能を活用する **5**

1 テレビや外部ディスプレイを接続する **5**

1 HDMI®出力端子に接続する／取りはずす 5
2 USB Type-C™コネクタに接続する／取りはずす 7
3 表示を切り替える 9

2 サウンド **10**

1 スピーカーの音量を調整する 10
2 マイクやヘッドホンを接続する 11

3 microSDメモリカードを使う（SDカードスロット） **13**

1 使えるmicroSDメモリカードについて 13
2 microSDメモリカードをセットする／取り出す 14

4 USB／Thunderbolt™対応機器を使う **15**

1 USBの常時給電と高速充電 16
2 USB対応機器を取り付ける／取りはずす 19

5 LAN機能を使う **20**

1 有線LANで接続する 20
2 無線LANで接続する 21

6 Bluetooth®機能を使う **24**

1 Bluetooth®対応機器と接続する 25

7 ホームページを見る **26**

1 ホームページを閲覧しよう 26

8 メール機能を使う **27**

1 Windowsのメール機能について.....27

9 便利な機能.....29

1 dynabook セッティングを使う.....29
2 ecoユーティリティで省電力の設定をする.....30
3 バッテリーを長持ちさせる.....32
4 顔の登録をしてAI機能をカスタマイズする.....33
5 プレゼンス センシングを設定する.....34
6 のぞき見検知を設定する.....34
7 ハンドサインでパソコンを操作する.....35
8 ディスプレイの消費電力をおさえる.....36
9 dynabook AI アシスタントを使う.....37
10 パネルオープンパワーオンを設定する.....39
11 dynabook 画面回転ユーティリティを使う.....39

2章 認証機能を設定する.....40

1 システムパスワードを設定する.....40

1 ユーザーパスワードを設定する.....41
2 スーパーバイザーパスワードを設定する.....46
3 HDD／SSDパスワードを設定する.....48
4 パスワード入力時の注意.....48

2 Microsoft アカウントのパスワードやPIN、 またはWindowsパスワード.....49

1 Windowsパスワードについて.....49
2 PINについて.....50

3 指紋認証を使う.....51

1 指紋を登録する.....51
2 指紋認証を行う.....53
3 指紋データを削除する.....54

4 顔認証を使う.....55

1 顔の情報を登録する.....55
2 顔認証を行う.....56
3 顔データを削除する.....56

3章 ワイヤレスWAN通信の設定.....57

1 ワイヤレスWAN通信について.....57

2 ワイヤレスWAN通信を行うには.....58

1 nanoSIMカードを使う場合.....58
2 eSIMを使う場合.....62
3 無線通信機能を有効にする.....64
4 インターネットに接続する.....66
5 インターネットAPNの設定方法.....67

3 通信ができないときは 68
4 ワイヤレスWAN通信に関する注意 69
5 ワイヤレスWAN通信を使用しなくなった場合 70
6 比吸収率（Body SAR）について.....71

本書をお読みになる前に

本製品を安全に正しく使うために、次のマニュアルもあわせてお読みください。
マニュアルの内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。

参照先	編名称	内容
付属の冊子および『オンラインマニュアル』または当社ホームページ「dynabook.com」	安心してお使いいただくために	本製品を使用する際の重要な情報や、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項について説明しています。 ＊**本製品を使用する前に、必ずお読みください。**
『オンラインマニュアル』または当社ホームページ「dynabook.com」	取扱説明書	各部名称や接続方法、電源の入れかた／切りかたなど、本製品の基本的な使用方法について説明しています。本製品を初期状態に戻す方法やサポート情報についても説明しています。

1章 パソコンの機能を活用する

パソコン本体に用意されている、さまざまな機能について説明しています。

1 テレビや外部ディスプレイを接続する

1 HDMI®出力端子に接続する／取りはずす

Memo
- HDMI®対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- 接続するHDMI®ケーブルは、外部ディスプレイに付属または市販のものを使用してください。
- HDMI®ケーブルは、HDMI®ロゴ（HDMI®）の表示があるケーブルを使用してください。
- 1,920×1,080ドット以上の解像度の出力には、ハイスピードHDMI®ケーブルを使用してください。
- 3,840×2,160ドット以上の解像度の出力には、ウルトラハイスピードHDMI®ケーブルを使用してください。
  解像度については、次の手順で検索してください。
  1. タスクバーにある検索ボックスに「解像度」と入力して検索する

  表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- テレビや外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

参照 「表示を切り替える（9ページ）」

- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

1 接続する

1. HDMI®ケーブルのプラグを、テレビまたは外部ディスプレイのHDMI®入力端子に差し込む
2. テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる
3. HDMI®ケーブルのもう一方のプラグを、パソコン本体のHDMI®出力端子に差し込む

参照 パソコン本体のHDMI®出力端子の位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

Memo
- HDMI®接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMI®ケーブルを抜いたあと、再度HDMI®ケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

■音声の出力をパソコン本体のスピーカーから外部ディスプレイなどに切り替える

HDMI®ケーブルでテレビや外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先がテレビや外部ディスプレイに切り替わります。
テレビや外部ディスプレイを接続しても音声が切り替わらない場合は、次の設定を行ってください。

Memo
- 手動で音声の切り替えを行う場合、あらかじめ表示方法を［複製］、［拡張］、［セカンドスクリーンのみ］のいずれかに設定しておく必要があります。

参照 「表示を切り替える（9ページ）」

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする
2. ［設定］をクリックする
3. ［システム］→［サウンド］をクリックする
4. ［サウンドの詳細設定］をクリックする
5. ［再生］タブでテレビまたは外部ディスプレイのアイコン（ ）がある項目を選択し、［既定値に設定］ボタンをクリックする
6. ［OK］ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声が出力されなくなります。テレビや外部ディスプレイを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順5で［スピーカー］を選択し、［既定値に設定］ボタンをクリックしてください。

2 取りはずす

1. HDMI®出力端子からHDMI®ケーブルのプラグを抜く

2 USB Type-C™コネクタに接続する／取りはずす

＊パソコン本体のUSB Type-C™コネクタとは、Thunderbolt™ 4（USB4™ Type-C)コネクタ（電源コネクタ）を指します。
＊以降、本書では「Thunderbolt™ 4（USB4™ Type-C)コネクタ」（電源コネクタ）を「Thunderbolt™（USB Type-C™）コネクタ」と呼びます。

Memo

- 接続するケーブルは、外部ディスプレイに付属または市販の映像出力に対応したUSB Type-C™ケーブルを使用してください。
- 表示可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- 外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

参照 「表示を切り替える（9ページ）」

- 著作権保護された映像などを外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応した外部ディスプレイを接続してください。

1 接続する

1. 外部ディスプレイのケーブルのプラグを、外部ディスプレイのUSB Type-C™コネクタに差し込む

2. 外部ディスプレイの電源を入れる

3. 外部ディスプレイのケーブルのもう一方のプラグを、パソコン本体のThunderbolt™（USB Type-C™）コネクタに差し込む

参照 パソコン本体のThunderbolt™（USB Type-C™）コネクタの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

■音声の出力をパソコン本体のスピーカーから外部ディスプレイなどに切り替える

USB Type-C™ケーブルで外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先が外部ディスプレイに切り替わります。
外部ディスプレイを接続しても音声が切り替わらない場合は、次の設定を行ってください。

Memo
- 手動で音声の切り替えを行う場合、あらかじめ表示方法を［複製］、［拡張］、［セカンドスクリーンのみ］のいずれかに設定しておく必要があります。

参照 「表示を切り替える（9ページ）」

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする
2. ［設定］をクリックする
3. ［システム］→［サウンド］をクリックする
4. ［サウンドの詳細設定］をクリックする
5. ［再生］タブで外部ディスプレイのアイコン（ ）がある項目を選択し、［既定値に設定］ボタンをクリックする
6. ［OK］ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声が出力されなくなります。外部ディスプレイを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順5で［スピーカー］を選択し、［既定値に設定］ボタンをクリックしてください。

2 取りはずす

Thunderbolt™（USB Type-C™）コネクタから外部ディスプレイのケーブルのプラグを抜く

3 表示を切り替える

＊表示装置は「本体ディスプレイ、テレビまたは外部ディスプレイ」を示します。

FNキーを押したまま F5キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。

（表示例）

FNキーを押したまま F5キーを数回押し、目的の項目を選択すると、表示装置が切り替わります。

項目	概要
PC画面のみ	本体ディスプレイだけに表示します。
複製	本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイの2つの表示装置それぞれに、同じ内容を表示します。
拡張	本体ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイの2つの表示装置を、1つの画面として表示します。
セカンドスクリーンのみ	テレビまたは外部ディスプレイだけに表示します （本体ディスプレイには何も表示されません）。

Memo

- テレビ／外部ディスプレイと本体ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
- テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 映像を再生するアプリケーションを起動しているときは、表示装置を切り替えられません。
  なお、ご使用の環境やアプリケーションにより複製表示、拡張表示での再生はサポートしていません。
- HDMI®出力端子またはThunderbolt™（USB Type-C™）コネクタに接続したテレビ／外部ディスプレイと、パソコン本体のディスプレイに映像を同時表示できない場合があります。
- 省電力の設定によりテレビ／外部ディスプレイの表示が消えた場合は、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。スリープに移行した場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

2 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。
音量はWindowsで制御しているため、Windows起動時や電源を切っているときは、音量変更はできません。

1 FN ＋ 3 または FN ＋ 4キーで調整する

1. 音量を小さくしたいときは FN ＋ 3キー、大きくしたいときは FN ＋ 4キーを押す

FNキーを押したまま 3キーを押すたびに音量が小さくなり、FNキーを押したまま 4キーを押すたびに音量が大きくなります。

2 音量ミキサーから調整する

1. 通知領域の アイコンを右クリックし、表示されたメニューから［音量ミキサーを開く］をクリックする

通知領域に アイコンが表示されていない場合は、［スタート］ボタン（ ）→［設定］→［システム］→［サウンド］→［音量ミキサー］をクリックしてください。
［音量ミキサー］画面が表示されます。

2. 各項目でつまみを左右にドラッグして調整する

をクリックすると消音（ミュート）になります。

ボリューム	本製品のスピーカー／ヘッドセットやヘッドホンの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（メッセージの表示、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

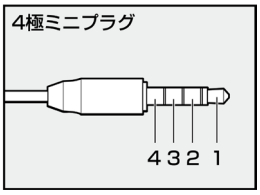
Memo ● キャプチャソフトなどを使用して、パソコンで再生中の音声を録音することはできません。

2 マイクやヘッドホンを接続する

1 使用できる端子の種類

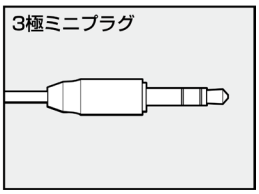
マイク入力/ヘッドホン出力端子で使用できる端子の種類は次のとおりです。

参照 パソコン本体のマイク入力/ ヘッドホン出力端子の位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』



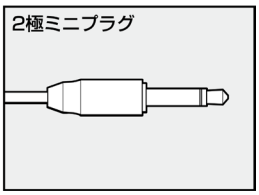
- プラグは直径3.5mm4極ミニプラグタイプが使用できます。
- 左図の数字は、次の内容を示します。
  1：ヘッドホン左
  2：ヘッドホン右
  3：グランド（マイク）
  4：マイク（グランド）
- 3ピンと4ピンのグランドとマイクは、本製品が自動識別します。
- マイク機能のみ、ヘッドホン機能のみを使用する場合、設定の変更を行う必要があります。

参照 「マイク／ヘッドホンを選択する（12ページ）」



- プラグは直径3.5mm3極ミニプラグタイプが使用できます。
- マイク、ヘッドホンが使用できます。
- 設定の変更を行う必要があります。

参照 「マイク／ヘッドホンを選択する（12ページ）」



- 直径3.5mm2極ミニプラグタイプのマイクでもマイク本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクであれば使用できます。
- 設定の変更を行う必要があります。

参照 「マイク／ヘッドホンを選択する（12ページ）」

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクを使用してください。
すべてのマイク、ヘッドホン、ヘッドセットに対応するものではありません。

2 マイク／ヘッドホンを選択する

ご使用のマイク／ヘッドホンを選択します。

1. マイクまたはヘッドホンを接続する

2. 「Realtek Audio Console」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「Realtek Audio Console」と入力する
②検索結果に表示される［Realtek Audio Console］をクリックする

3. 画面左側の［デバイス詳細設定］をクリックする

4. の横にあるプルダウンメニューからデバイスを選択する

5. ［閉じる］ボタン（ ✕ ）をクリックする

3 microSDメモリカードを使う（SDカードスロット）

1 使えるmicroSDメモリカードについて

● microSDメモリカード（microSDHCメモリカード、microSDXCメモリカードを含む）＊1＊2

＊1　すべての記録メディアの動作を保証するものではありません。

＊2　microSDIOカードには対応していません。

Memo

● 新品のmicroSDメモリカードは、microSDメモリカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、microSDメモリカードを使えるようにすることです。
フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 microSDメモリカードをセットする／取り出す

お願い microSDメモリカードの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 microSDメモリカードを使うにあたって『取扱説明書 付録 2 記録メディアについて』

1 セットする

1. microSDメモリカードの表裏を確認し、コネクタ部分（金色の部分）を下にして、SDカードスロットに挿入する

奥まで挿入します。

参照 パソコン本体のSDカードスロットの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

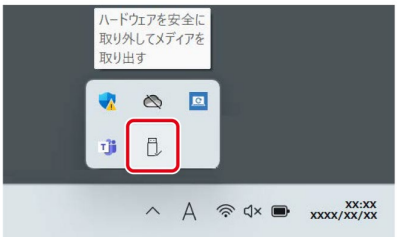
2 取り出す

microSDメモリカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、microSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
microSDメモリカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。ファイルやウィンドウを閉じてから、操作を行ってください。

1. microSDメモリカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。



（表示例）

②表示されたメニューから［（取りはずすmicroSDメモリカード）の取り出し］をクリックする

「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

2. microSDメモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

4 USB／Thunderbolt™対応機器を使う

USB／Thunderbolt™対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。
また、初めて接続する周辺機器を認識すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

Thunderbolt™

USB／Thunderbolt™対応機器すべての動作を保証するものではありません。

お願い **USB対応機器の操作にあたって**

- USBコネクタに接続するとパソコン本体が浮き上がるような分厚いUSB対応機器の場合は注意して使用してください。パソコン本体のUSBコネクタに力が加わり破損するおそれがあります。

USB Type-Aコネクタについて

USB Type-Aコネクタには、USB3.2（Gen1）／USB3.1（Gen1）／USB3.0／USB2.0／USB1.1対応機器を取り付けることができます。

Thunderbolt™（USB Type-C™）コネクタについて

Thunderbolt™（USB Type-C™）コネクタには、Thunderbolt™4／Thunderbolt™3／USB4™／USB3.2（Gen2）／USB3.2（Gen1）／USB3.1（Gen2）／USB3.1（Gen1）／USB3.0／USB2.0／USB1.1対応機器を取り付けることができます。
バッテリー充電中に、もう一方のThunderbolt™（USB Type-C™）コネクタへ使用電流の大きなUSB対応機器を取り付けると、バッテリー充電中であっても、バッテリーを消費する場合があります。
また、2つのThunderbolt™（USB Type-C™）コネクタへ対応機器を同時に接続した場合、給電できる電流に制限があります。

■USBケーブルについて

Thunderbolt™（USB Type-C™）コネクタに、市販のUSB対応機器を接続する場合は、パソコン本体に接続する側のプラグが、USB Type-C™のものを使用してください。もし、USB Type-C™ではない場合は、USB Type-C™変換アダプターなどが必要です。

参照 USB対応機器の詳細『USB対応機器に付属している説明書』

1 USBの常時給電と高速充電

1 USBの常時給電

パソコンがスリープ状態であれば常にUSBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給できます。また、⚡アイコンが付いているUSB Type-Aコネクタは、電源OFF、休止状態でも、パワーオフアンドチャージ機能を有効にすることで、USBバスパワーを供給できます。本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。

＊USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべてのUSB対応機器の使用および充電を保証するものではありません。

Memo USBの常時給電について

- バッテリー駆動でスリープのUSB常時給電を使用すると、バッテリーの残量にかかわらず、パソコンの状態によって自動的に休止状態へ移行する場合があります。

設定方法

パワーオフアンドチャージ機能はご購入時の設定では無効になっています。
使用するには「dynabook セッティング」で「パワーオフアンドチャージ」を有効にする必要があります。

1. タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
2. 検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする
3. ［USB給電］で［パワーオフアンドチャージ］を［有効］に設定する

「USB給電について」の表示方法

パワーオフアンドチャージ機能についての詳細は、次の手順で確認できます。

1. USB対応機器を、パソコン本体のUSBコネクタに接続する

   画面右下に、「パワーオフアンドチャージ」のメッセージが表示されます。

2. メッセージをクリックする

   ［USB給電について］画面が表示されます。

バッテリーモードの機能

バッテリー駆動しているときのパワーオフアンドチャージ機能を設定します。
バッテリー残量が指定した値以下になると、パワーオフアンドチャージは機能しません。
本機能を設定するには、あらかじめ［パワーオフアンドチャージ］を有効にしてください。

設定を変更するには、次のように操作してください。

1. **タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する**

2. **検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする**

3. **［USB給電］で［パワーオフアンドチャージ］を［有効］に設定する**

4. **［バッテリーモードの機能］で［有効］または［無効］を選択する**

   ［有効］を設定すると、バッテリー駆動しているときにパワーオフアンドチャージが機能します。［無効］を設定すると、電源コードとACアダプターを接続した場合に限り、パワーオフアンドチャージが機能します。

5. **バッテリー残量の下限を指定する**

   ［バッテリーモードの機能］が有効な状態でスライダーバーを移動し、パワーオフアンドチャージが機能する、バッテリー残量の下限を指定してください。

2 USBの高速充電

⚡アイコンが付いているUSB Type-Aコネクタでは、接続したUSB対応機器を高速に充電できます。

＊USBケーブルは本製品には含まれていません。別途ご使用の機器に付属の高速充電に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべてのUSB対応機器の充電を保証するものではありません。

■電源OFF、休止状態での高速充電について

接続するUSB対応機器とUSBケーブルが2.0A充電に対応している場合、パソコンが電源OFF、休止状態のときに、USB Type-AコネクタにUSB バスパワー（DC5V）を最大2.0Aまで供給し、短時間で充電できます。

本機能はご購入時の設定では無効になっています。
「パワーオフアンドチャージ」の設定を有効にすると本機能が有効になり、「自動モード」に設定されます。

参照 パワーオフアンドチャージを有効にする「USBの常時給電（16ページ）」

■システムON CDPチャージモードでの高速充電について

電源ON、スリープ状態時に、USB Type-AコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給し、短時間で充電できます。

本機能はご購入時の設定では有効になっています。
バッテリー駆動時間を長くしたいなどの理由で、本機能を使用しない場合は次の手順で本機能を無効にしてください。

1. タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する

2. 検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

3. ［USB給電］で［システムON CDPチャージモード］を［無効］に設定する

   設定後、再起動が必要な場合があります。

2 USB対応機器を取り付ける／取りはずす

1 取り付ける

1. USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。

参照 USB対応機器の詳細について『USB対応機器に付属している説明書』

2. USBケーブルのもう一方のプラグを、パソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

参照 パソコン本体のUSBコネクタの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

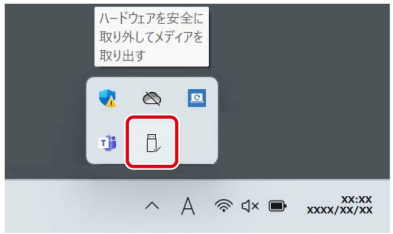
2 取りはずす

USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスク／SSDなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。
USB対応機器に保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取りはずしができません。ファイルやウィンドウを閉じてから、操作を行ってください。

1. USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順2に進んでください。



（表示例）

②表示されたメニューから［（取りはずすUSB対応機器）の取り出し］をクリックする
「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されます。

2. パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルのプラグを抜く

5 LAN機能を使う

1 有線LANで接続する

1 有線LANを使用する

LANケーブルを使用して、パソコンと通信回線を接続します。

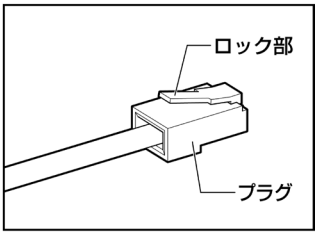
2 LANケーブルを接続する

お願い **LANケーブルの操作にあたって**

- LANケーブルのプラグのロック部が大きいものや特殊なものは、パソコン本体のLANコネクタに差し込めない場合があります。
- 有線LANを使用中に、LANケーブルのプラグに触れないでください。
  プラグに強い力が加わると、通信不良が起こったり、LANコネクタやプラグが破損するおそれがあります。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 LANケーブルの使用にあたって『取扱説明書 付録 1 ご使用にあたってのお願い』

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。
LANケーブルは本製品には付属していません。市販のLANケーブルを購入してください。



1. パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2. LANケーブルのプラグを、パソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部の向きに注意して、差し込んでください。

参照 パソコン本体のLANコネクタの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

3. LANケーブルのもう一方のプラグを、接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

参照 光回線終端装置の設定について『プロバイダーなどから送られてくる資料』
参照 ブロードバンドルーターの設定について『ブロードバンドルーターに付属している説明書』

2 無線LANで接続する

⚠警 告

- **植込み型医療機器（心臓ペースメーカー等）を装着しているかたは、植込み型医療機器の装着部位から15cm以上離す**
  電波により植込み型医療機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、航空機/医療用の電子機器に影響を与えることがあるので、無線通信機能および各種設定を無効にしたうえで、パソコンの電源を切ってください。
  - 無線通信機能は、次の手順でOFF にしてください。
    ①通知領域の または アイコンをクリックする
    ②［機内モード］をクリックして、オンに切り替える
    オンになると、通知領域に アイコンが表示されます。
  - パソコンが自動的に復帰することがあるため、スリープや休止状態にしないでください。
  - 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するようなソフトウェアを入れた場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
    または、自動的に起動するような下記の設定をした場合も、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
    Wake-up on LAN
    Wake-up on LAN on Battery
    Power on by AC

参照 『BIOS編　2章 設定項目 3 Power Management』

  - ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

参照 「パネルオープンパワーオンを設定する（39ページ）」

お願い **無線LANの操作にあたって**

- Bluetooth®と無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの無線LANの無線周波数帯をBluetooth®と異なる無線周波数帯に設定して使用してください。

お願い

- 『取扱説明書』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。無線LANを使用する場合は記述をよく読んで、セキュリティの設定を行ってください。

参照 デイリーケアとアフターケア『取扱説明書 4章 サポート関連のご案内』

1 無線LANの設定を行う前に

無線LANの設定を行う前に、次の操作を行ってください。

1. 無線LANアクセスポイントの設定を確認する

無線LANアクセスポイントに設定されている、次の項目を確認してください。メーカーによっては、無線LANアクセスポイント本体に貼ってあるラベルに記載されています。

SSID	ワイヤレスネットワークの名称です。
セキュリティキー	ワイヤレスネットワークの通信情報を暗号化するときのキーです。

参照 『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』

2. 無線LANアクセスポイントの電源を入れる

3. パソコンの電源を入れ、パソコン本体の無線通信機能をONにする

機内モードがオン（通知領域に が表示）の場合は、機内モードをオフにしてください。

①通知領域の をクリックする

②［機内モード］をクリックして、オフに切り替える

機内モードオフ（通知領域には または が表示）　：無線通信機能ON

機内モードオン（通知領域には が表示）　：無線通信機能OFF

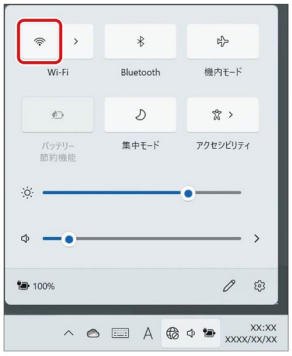
2 無線LANの設定方法

無線LANアクセスポイントを選択して接続します。

1. 通知領域の または アイコンをクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックして確認してください。

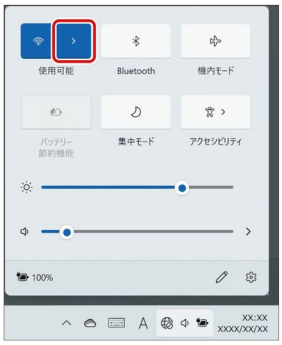
2. ［Wi-Fi］がOFF（アイコンに色が付いていない）の場合は をクリックする



（表示例）

［Wi-Fi］がONになると、アイコンに色が付きます。

3. の右側の、 をクリックする



（表示例）

パソコンの周囲にあるワイヤレスネットワーク（無線LANアクセスポイント）のSSIDの一覧が表示されます。
以前接続したことがあるワイヤレスネットワークのセキュリティ情報がパソコンに記憶されている場合は、自動的に接続されます。

4. 接続するワイヤレスネットワークをクリックする

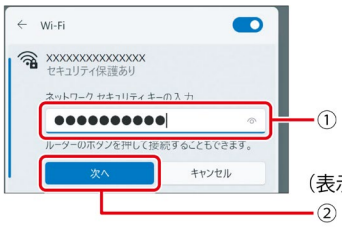
環境によっては、近隣で使用されているワイヤレスネットワークのSSIDが表示される場合があります。必ず目的のワイヤレスネットワークを選択してください。

（表示例）

5. ［自動的に接続］をチェックし①、［接続］ボタンをクリックする②

（表示例）

6. ネットワークセキュリティキーを入力して①、［次へ］ボタンをクリックする②



（表示例）

以降は、画面の指示に従って操作してください。
選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティキーなどは、正しく設定してください。
正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

参照 『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』

パソコンがインターネットに接続できることを確認してください。

参照 無線LANの設定の詳細について『プロバイダーまたは回線事業者から送られてくる資料』、『無線LANアクセスポイントに付属している説明書』

6 Bluetooth®機能を使う

⚠警 告

- **植込み型医療機器（心臓ペースメーカー等）を装着しているかたは、植込み型医療機器の装着部位から15cm以上離す**
  電波により植込み型医療機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、航空機/医療用の電子機器に影響を与えることがあるので、無線通信機能および各種設定を無効にしたうえで、パソコンの電源を切ってください。
  - 無線通信機能は、次の手順でOFF にしてください。
    ①通知領域の または アイコンをクリックする
    ②［機内モード］をクリックして、オンに切り替える
    オンになると、通知領域に アイコンが表示されます。
  - パソコンが自動的に復帰することがあるため、スリープや休止状態にしないでください。
  - 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するようなソフトウェアを入れた場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
    または、自動的に起動するような下記の設定をした場合も、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
    Wake-up on LAN
    Wake-up on LAN on Battery
    Power on by AC

参照 『BIOS編　2章 設定項目 3 Power Management』

  - ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

参照 「パネルオープンパワーオンを設定する（39ページ）」

Memo

- Bluetooth®のバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth®対応機器があります。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth®対応機器と接続する

1. Bluetooth®対応機器の電源を入れ、Bluetooth®機能をONにする

参照 Bluetooth®対応機器の操作方法の詳細『Bluetooth®対応機器に付属している説明書』

2. パソコン本体の無線通信機能をONにする

機内モードがオン（通知領域に が表示）の場合は、機内モードをオフにしてください。

①通知領域の をクリックする
②［機内モード］をクリックして、オフに切り替える

機内モードオフ（通知領域には または が表示）：無線通信機能ON
機内モードオン（通知領域には が表示）：無線通信機能OFF

3. Bluetooth®対応機器を設定する

①［スタート］ボタン（ ）をクリックする
②［設定］をクリックする
③［Bluetoothとデバイス］をクリックする
［Bluetoothとデバイス］画面が表示されます。
④［Bluetooth］を［オン］に設定する
［オン］にすると、パソコン本体のBluetooth®機能がONになります。
⑤［デバイスの追加］をクリックする
以降は、画面の指示に従って設定してください。

7 ホームページを見る

ホームページの閲覧方法について説明しています。

1 ホームページを閲覧しよう

ホームページを見るために必要なアプリケーションのことを、「ブラウザ」と呼びます。
本製品では、「Microsoft Edge（マイクロソフトエッジ）」というブラウザを使用します。
ホームページのことを、「Webページ」や「Webサイト」と呼ぶこともあります。

特定のホームページを見たいときは、おもに次の方法で行います。

- ホームページを検索する
  キーワードを入力してホームページを検索します。
  該当した候補の中から見たいホームページを選択します。
- URLを入力する
  URLとは、インターネット上にあるホームページの場所を特定する情報です。
- URLを入力すると、見たいホームページが直接表示されます。

1 Microsoft Edgeを使用する

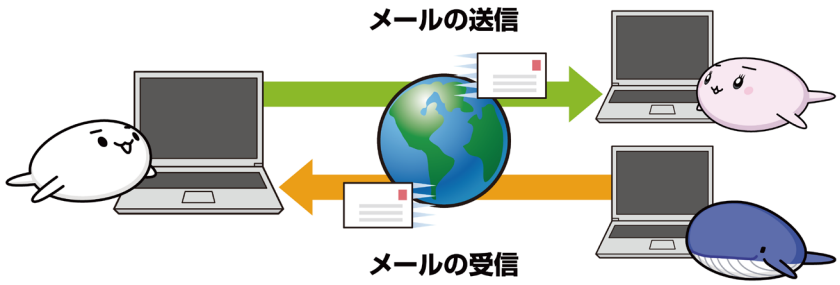
起動方法

1. タスクバーの［Microsoft Edge］ボタン（ ）をクリックする

「Microsoft Edge」が起動します。

8 メール機能を使う

本製品のメール機能について説明します。



■メール機能を使うためのアプリケーション

本製品には、メールアプリケーションとして「Outlook」や、モデルにより「Outlook（classic）」が用意されています。

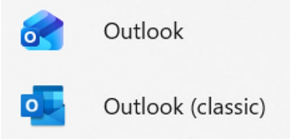
■メールアドレスの取得について

メールを送信・受信するためには、メールアドレスが必要になります。
メールアドレスは、プロバイダーなどのメールサービスに申し込んで取得したり、無料のフリーメールアドレスを使用することができます。

1 Windowsのメール機能について

本製品では、メールアプリケーションとして「Outlook（Outlook for Windows）」をご利用いただけます。なお、機種や環境によっては、Officeの「Outlook（classic）」でもメール機能をご利用いただけます。

以下は、アイコンの表示例です。



1 「Outlook」（Outlook for Windows）

起動方法

①タスクバーにある検索ボックスに「Outlook」と入力する
②検索結果に表示される［Outlook］をクリックする
以降は、画面の指示に従って操作してください。

参照 お問い合わせ先『取扱説明書 4章 1 お問い合わせ先（OS／アプリケーション）』

Memo
- 「Outlook」（Outlook for Windows）の機能については、以下マイクロソフト社のホームページでもご紹介しています。

参照 『Windows 用の新しい Outlook の概要 - Microsoft サポート』

2 「Outlook（classic）」

「Outlook（classic）」は、予定表や連絡先などの管理を行うことができる、メールソフトの機能を持ったアプリケーションです。

起動方法

①タスクバーにある検索ボックスに「Outlook（classic）」と入力する
②検索結果に表示される［Outlook（classic）］をクリックする

Microsoft アカウントが表示されたら、接続してください。「Outlook（classic）」が起動します。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

「Outlook（classic）」についてのお問い合わせは、「Office」のお問い合わせ先までご連絡ください。

参照 お問い合わせ先『取扱説明書 4章 1 お問い合わせ先（OS／アプリケーション）』
参照 Officeのセットアップ『準備編 1章 2 初めて電源を入れてWindowsセットアップが終了したら』

9 便利な機能

1 dynabook セッティングを使う

「dynabook セッティング」では、次の機能をWindows上で設定変更できます。

- ecoユーティリティ
- セキュリティ
- ジェスチャー
- USB給電
- キーボード
- 起動オプション
- システムパスワード
- 高度な設定（各種デバイスおよび機能の設定）

＊搭載している機能または設定変更できる機能は、モデルによって異なります。

複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

設定方法

1.「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. 画面左側から機能を選択し、画面右側で各設定を行う

Memo
- システムパスワード（ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワード）を登録している場合、「dynabook セッティング」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。パスワードで認証を行ってください。

ヘルプの起動方法

1.「dynabook セッティング」を起動後、［ホーム］で［サポートする機能について］をクリックする

2 ecoユーティリティで省電力の設定をする

「ecoユーティリティ」は、節電への貢献を総合的にサポートします。

■ecoモード

「ecoモード」をオンにすると、当社の推奨する設定によって、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

■貢献履歴

消費電力の低減によって、どれだけ環境の保護に貢献できたかが、イメージやグラフなどで表示されます。
一日ごと、または月ごとに確認できます。

■dynabook省電力設定

「dynabook省電力設定」を有効にすると、Windowsのパワースライダーのモードに合わせて、本製品に適した電力制御を行います。

Memo
- 「ecoモード」がオンのときは、常に省電力制御を行います。

■バッテリー充電モード

バッテリー充電モードを選択します。パソコンのご使用状況に合った充電モードを選択してください。
Auto／80%／70%の充電モードは、バッテリーの機能低下を遅らせる充電方式です。満充電での容量が少ないため、バッテリー駆動時間は短くなります。

■ピークシフト

昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現します。たとえば夏期の日中など電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に充電したバッテリーでパソコンを動作させる電源管理機能を備えています。
ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。

Memo
- ピークシフトをご利用の場合、自動的にバッテリー駆動に切り替わり、CPUやグラフィックアクセラレーターの性能が十分に発揮されない場合があります。
  映像や音楽を視聴する場合、ピークシフトを一時的に無効にすることをおすすめします。
- 表示されるメニューは、モデルにより異なります。

起動方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. ［ecoユーティリティ］で各項目を設定する

ヘルプの起動方法

1. ［ecoユーティリティ］画面で［ecoユーティリティについて詳しくはここをクリックしてください］をクリックする

「ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

3 バッテリーを長持ちさせる

次の手順に従って「バッテリー充電モード」を設定することにより、バッテリーの充電量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。
パソコンの電源コードとACアダプターを、コンセントに接続したまま使用される方におすすめです。
ただし、バッテリーの充電量が少なくなるため、バッテリーでの駆動時間は短くなります。

1 バッテリー充電モードを設定する

「dynabook セッティング」の「バッテリー充電モード」で、「100% 充電モード」以外を選択すると、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。

参照 バッテリー充電モードについて『取扱説明書 1章 9 バッテリーについて』

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

   ①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
   ②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. ［ecoユーティリティ］の［バッテリー充電モード］で、［100% 充電モード］以外に設定する

Memo
- モデルによっては、ピークシフト期間中やバッテリー充電モードで規定値以上充電されると、バッテリーへの充電は一時的に停止されます。

2 Adaptive System Optimizationを設定する

AIがオンライン会議アプリの起動を検出すると、バッテリーセーブ機能を最適化しPCの消費電力を抑制することができます。

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

   ①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
   ②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. ［高度な設定］の［パフォーマンス設定］の右の ∨ をクリックし、［Adaptive System Optimization］の［オンラインミーティングの最適化］を、［有効］に設定する

4 顔の登録をしてAI機能をカスタマイズする

＊「プレゼンス センシング」搭載モデルのみ

ユーザーが顔を登録すると、以下の機能は登録したユーザーのみが使用することができます。

- プレゼンス センシング
- のぞき見検知
- ハンドサイン

参照 プレゼンス センシングを設定する（34ページ）
参照 のぞき見検知を設定する（34ページ）
参照 ハンドサインでパソコンを操作する（35ページ）

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. 1つも顔を登録していない場合は、［セキュリティ］の［顔の登録］から、［顔の登録］をクリックする

すでに顔を登録済みの場合は、［顔の登録］を［有効］に設定する

［顔の登録］をクリックすると、［「顔認証」機能を有効にする必要があります。機能を有効にしますか？］のメッセージが表示されます。［はい］をクリックし、顔を登録してください。顔を登録後、［顔の登録］が［有効］になります。

Memo
- ［顔の登録］を［有効］に設定するためには少なくとも 1 つ顔を登録する必要があります。
- 顔認証機能はパソコンの前に人が誰もいなくなった後、再び人が認識された状態でないと正しく動作しないことがあります。

5 プレゼンス センシングを設定する

＊「プレゼンス センシング」搭載モデルのみ

プレゼンス センシングは、パソコンがユーザーの存在を検知し、それに応じて動作を変える技術です。例えば、ユーザーがパソコンの画面に近づくと自動的に画面をオンにしたり、離れたときにパソコンの画面をオフにすることができ、セキュリティの強化ができます。

参照 プレゼンス センシング機能について『取扱説明書 1章 4 電源を切る／再起動／スリープ』

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

   ①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
   ②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. ［セキュリティ］の［Windowsの設定からプレゼンスセンシング設定を確認してください］の［プレゼンスセンシング設定］をクリックする

3. 表示された設定画面で各項目を設定する

6 のぞき見検知を設定する

＊「プレゼンス センシング」搭載モデルのみ

AIで正面のユーザーの顔を検知し、背後にユーザー以外の顔を検出すると、デスクトップ画面の上部に警告バーを表示します。ユーザーは簡単な操作により、デスクトップ画面にぼかし効果を適用することができます。

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

   ①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
   ②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. ［セキュリティ］の［のぞき見検知］を［有効］に設定する

7 ハンドサインでパソコンを操作する

＊「プレゼンス センシング」搭載モデルのみ

ハンドサインによってパソコンを操作することができます。

設定方法

1.「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2.［ジェスチャー］の［ハンドサインでPCの操作を有効にする］を［有効］に設定し、［サポートするシナリオ］を設定する

お願い

- パソコンからの距離、手の大きさ、角度、周辺環境などにより、認識精度や有効範囲に影響が出たり、正常に動作しないことがあります。
- パソコンの前に複数の人がいる場合、ハンドサインが正常に動作しないことがあります。
- プレゼンス センシング機能とハンドサイン機能を両方有効にした場合、ハンドサインの認識に時間がかかることがあります。

8 ディスプレイの消費電力をおさえる

本体ディスプレイに表示する映像のコントラストと明るさを自動的に調整することにより、パソコンの消費電力をおさえることができます。初期設定ではバッテリー駆動の場合に消費電力をおさえる設定ですが、電源コードとACアダプターを接続している場合でも、次の手順で設定できます。

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする
2. ［設定］をクリックする
3. ［システム］ →［ディスプレイ］をクリックする
4. ［明るさ］をクリックする
5. ［コンテンツに基づいて明るさを変更する］画面にて、［バッテリ使用時のみ］を［常時］に変更する

9 dynabook AI アシスタントを使う

AIを活用することにより、文章の翻訳や長文資料の要約などを簡単に行うことができます。パソコン操作の支援などもAIがチャット形式でアシストします。

本アプリケーションは言語モデルに基づき、出力結果を生成しています。まず本アプリケーションの免責事項を確認していただき、あわせて以下の点も確認した上で、ご利用をお願いします。免責事項はアプリケーション起動後、⚙をクリックし、表示された画面の［情報］の［免責事項］から確認することができます。

■情報の正確性

生成AIが出力する情報は必ずしも正確であるとは限りません。また特定のトピックや視点に偏る情報となる可能性があります。別の情報源もあわせて参照することをおすすめします。またPCヘルプチャットの回答については、パソコンに搭載されているオンラインマニュアルやdynabookサポート情報（https://dynabook.com/assistpc/index_j.htm）もあわせて参照することをおすすめします。

■個人情報

本アプリケーションにて個人情報（当社にとって個人情報に該当する情報を含みます。）を入力する場合、当該個人情報により特定される本人の同意を取得する必要があります。またプライバシーポリシーは本アプリケーション起動後、⚙をクリックし、表示された画面の［情報］の［プライバシーポリシー］から確認することができます。

■情報の利用責任

本アプリケーションの出力情報は参考として利用してください。出力情報の利用に関してはお客様自身の責任となります。

起動方法

1.「dynabook AI アシスタント」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook AI アシスタント」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook AI アシスタント］をクリックする
免責事項の画面が表示された場合は、最後まで内容をお読みになり、免責事項の同意に関するチェックボックスをチェックし、［同意する］をクリックしてください。

利用方法の詳細についてはアプリケーションのヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1.「dynabook AI アシスタント」を起動後、⚙をクリックし、表示された画面の［情報］の［ヘルプ］をクリックする

「dynabook AI アシスタント」のヘルプが表示されます。

お願い

- データの読み込み（ローディング）に数分かかることがあります。読み込みが完了するまでお待ちください。
- ユーザからの入力とアプリケーションからの出力にはサイズ、文字種に制限があります。詳細はアプリケーションのヘルプを参照してください。
- メモリリソース制限により出力結果が得られない可能性があります。他のアプリケーションを起動している場合は終了して、再度お試しください。

Memo

- 暗号化されたファイルはサポートしておりません。
- 手書き文字、ぼやけた文字、またフォントの種類によっては、文字が正しく読み取れない場合があります。
- PCヘルプチャットでは、関連性のないコンテンツのリンクが表示される場合があります。
- 翻訳モードでは、入力言語が正しく認識されず、翻訳結果が指定した言語にならない場合があります。また第一言語、第二言語設定が正しく動作しないことがあります。
- アンサンブルチャットのバーチャルキャラクターは、すべての入力に対して回答が得られるとは限りません。

10 パネルオープンパワーオンを設定する

パネルオープンパワーオン機能は、ディスプレイを開くと自動的にパソコンの電源が入る機能です。本機能は、次の手順で設定できます。

設定方法

1. 「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. ［起動オプション］をクリック

3. ［パネルオープンパワーオン］の設定を［有効］にする

11 dynabook 画面回転ユーティリティを使う

「dynabook 画面回転ユーティリティ」を使用すると、キーボードの操作で簡単に、パソコンの表示画面を回転できます。パソコンをフラットスタイルで使用（ディスプレイを水平（フラット）に開いて使用）するとき、見せたい人の向きへパソコンの表示画面を回転できます。

■表示画面の向きを回転する方法

●キーボードの操作

キー	内容
CTRL ＋ ALT ＋ ↑ キー	表示画面の向きを、「横（標準向き）」に戻します。
CTRL ＋ ALT ＋ ↓ キー	表示画面の向きを、「横（反対向き）」に回転します。

●通知領域からの操作

①通知領域の［dynabook 画面回転ユーティリティ］アイコン（ ）を右クリックする
＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
②［画面を横（反対向き）に回転する］または［画面を横（標準向き）に回転する］をクリックする

■本ユーティリティの設定方法

購入時の状態では、「画面回転機能」はオンに設定されています。設定を変更したい場合は、次の操作を行ってください。

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook 画面回転ユーティリティ」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook 画面回転ユーティリティ］をクリックする
③「画面回転機能」、「画面回転の確認メッセージ」、「外部ディスプレイの画面回転メッセージ」について設定する

Memo
- 外部ディスプレイが接続されている場合は、表示画面の向きを回転できません。
- 本ユーティリティの設定で「画面回転機能」がオフに設定されている場合は、表示画面の向きを回転できません。
- ほかのアプリケーションが同じショートカットキーを使用している場合は、本ユーティリティの機能は使用できない場合があります。

2章 認証機能を設定する

本製品を使用するときの、さまざまな認証機能の設定方法について説明しています。

1 システムパスワードを設定する

システムパスワードには次のものがあります。

- ユーザーパスワード（BIOSパスワード）
  電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、パスワードを入力しないと起動しません。
- スーパーバイザーパスワード（BIOSパスワード）
  BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかけられます。スーパーバイザーが使用します。
- HDD／SSDパスワード
  本体のハードディスク／SSDを保護します。電源を入れるときにHDD／SSDパスワードを入力しないと起動しません。万が一パスワードを忘れた場合、ハードディスク／SSDを使用できなくなる、非常に強固なセキュリティです。
  HDD／SSDパスワードには、HDD／SSDユーザーパスワードとHDD／SSDマスターパスワードがあります。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に連絡してください。
  HDD／SSDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスク／SSDは使用できなくなりますので、有料にてハードディスク／SSDを交換します。
  その他のパスワードの場合は、有料にてパスワードを解除します。その際、パスワードの種類によっては、お客様のデータが失われる場合があります。
  またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要です。

Memo

- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDD／SSDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	; : , . （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など ・記号の一部（半角） 【例】 ｜（バーチカルライン） ＿（アンダーバー） ¥（エン）など ・ほかのキー（ SHIFT キーや CAPSLOCK 英数キーなど）と同時に使用しないと入力できない文字	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワードを設定する

ユーザーパスワードは、「dynabook セッティング」で設定します。

Memo
- ユーザーパスワードは、BIOSセットアップの次の項目から設定することもできます。
  ・［Security］メニューの［BIOS Password］の［User］

参照 BIOSセットアップの詳細『BIOS編 2章 設定項目 2 Security』

1 ユーザーパスワードの登録

ユーザーパスワードを登録する手順を説明します。

1.「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

2. ［システムパスワード］で［登録］ボタンをクリックする

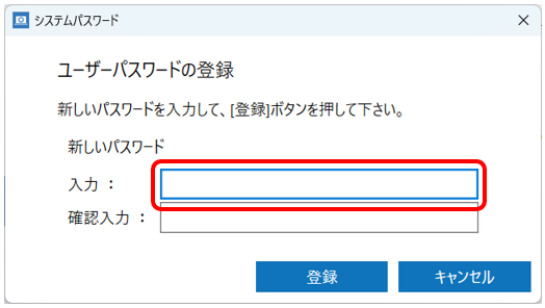
（表示例）

［ユーザーパスワードの登録］画面が表示されます。

3. ［入力：］にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字について「パスワードに使用できる文字（41ページ）」



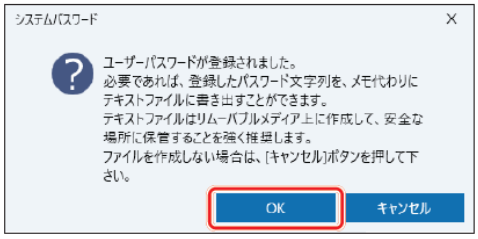
（表示例）

4. ［確認入力：］にもう一度パスワードを入力する

5. ［登録］ボタンをクリックする

6. パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。



（表示例）

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

7. パスワードファイルを保存する

パスワードファイルは、USBフラッシュメモリなどの記録メディアに保存することを強くおすすめします。

8. 必要に応じて、［パスワードの注釈：］を入力する

［パスワードの注釈］にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
パスワード文字列そのものを登録しないでください。
使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

参照 パスワードに使用できる文字について「パスワードに使用できる文字（41ページ）」

9. ［適用］ボタンをクリックする

お願い
- パスワードファイルを保存した記録メディアは、安全な場所に保管してください。

Memo
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。
- ユーザーパスワードを登録すると、以後「dynabook セッティング」を起動する際に、認証画面が表示されます。パスワードで認証を行ってください。

2 ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

1. 「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

2. ［システムパスワード］で［変更］ボタンをクリックする

［ユーザーパスワードの変更］画面が表示されます。

3. ［入力：］に新しいパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字について「パスワードに使用できる文字（41ページ）」

4. ［確認入力：］にもう一度新しいパスワードを入力する

5. ［変更］ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

6. メッセージの内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。
ここでは、まだパスワードは変更されていないので、手順 3 、4 で入力したものではなく、その前に登録しておいたパスワードを入力してください。
パスワードが変更されます。
変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

7. パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

参照 ユーザーパスワードの登録の手順6 「パスワードファイルを作成する（42ページ）」

3 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1. 「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

2. ［システムパスワード］で［削除］ボタンをクリックする

［ユーザーパスワードの削除］画面が表示されます。

3. ［削除］ボタンをクリックする

4. メッセージの内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。
確認のメッセージが表示されます。

5. ［OK］ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

2 スーパーバイザーパスワードを設定する

スーパーバイザーパスワードは「dynabook セッティング」で設定します。

Memo

- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。
  スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、一度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう一度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。
- スーパーバイザーパスワードは、BIOSセットアップの次の項目から設定することもできます。
  ・［Security］メニューの［BIOS Password］の［Supervisor］

参照 BIOSセットアップの詳細『BIOS編 2章 設定項目 2 Security』

1 スーパーバイザーパスワードの登録、変更、削除

1.「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

パスワードを登録している場合は、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

2.［システムパスワード］で画面右側をスクロールし、［高度な設定］の右の ∨ をクリックする

スーパーバイザーパスワードが設定できるようになります。
スーパーバイザーパスワードの登録、変更、削除方法は、ユーザーパスワードと同様です。

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

2 一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーに対して、BIOSセットアップの管理などに制限を加えることができます。
スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1. 「dynabook セッティング」を起動する

   認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

2. ［システムパスワード］で画面右側をスクロールし、［高度な設定］の右の ∨ をクリックする

3. ［ユーザーポリシー］の［設定］ボタンをクリックする

4. 必要に応じて項目のチェックをはずす

5. ［設定］ボタンをクリックする

6. メッセージが表示された場合は内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

   認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

7. ［OK］ボタンをクリックする

3 HDD／SSDパスワードを設定する

＊HDD／SSDパスワード機能搭載モデルのみ

HDD／SSDパスワードは、BIOSセットアップで設定します。

参照 BIOSセットアップの詳細『BIOS編 2章 設定項目 2 Security』

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。
  この場合、ハードディスク／SSDは使用できなくなりますので、有料にてハードディスク／SSDを交換します。
  ハードディスク／SSDが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
  HDD／SSDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいたうえでご使用ください。

2 HDD／SSDパスワードの種類

HDD／SSDパスワードには、次の2種類のパスワードがあります。
HDD／SSDユーザーパスワードのみを登録することはできません。

■HDD／SSDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。

■HDD／SSDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDD／SSDマスターパスワードはHDD／SSDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDD／SSDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDD／SSDマスターパスワードを入力してハードディスク／SSDにアクセスできます。
組織などでパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザーに対してパソコン本体を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでHDD／SSDマスターパスワードと仮のHDD／SSDユーザーパスワードを設定しておく必要があります。

4 パスワード入力時の注意

スーパーバイザーパスワード、ユーザーパスワード、HDD／SSDパスワードを入力するとき、続けて3回間違えると認証エラーとなり、自動的に電源が切れます。
パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。
この場合は、電源を入れ直して、再度パスワードを入力してください。

お願い

- パスワード入力画面で認証エラーが発生して電源が切れると、タイマー＊1、LAN＊1、USB＊1からの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。
  頻繁に認証エラーが発生し電源が切れるときは、スーパーバイザーパスワード、ユーザーパスワード、HDD／SSDパスワードの設定を解除することをおすすめします。

＊1 本機能を搭載しているモデルのみ

2 Microsoft アカウントのパスワードやPIN、またはWindowsパスワード

Windowsにサインインするためのパスワード／暗証番号として、WindowsパスワードとPINが用意されています。
指紋認証や顔認証を使用する場合、あらかじめ、WindowsパスワードとPINの設定を行っておく必要があります。

お願い

- Windowsパスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、dynabook あんしんサポート 使いかた相談窓口に連絡してください。

Memo

- PINを忘れてしまったときは、Windowsパスワードでサインインしてください。
- WindowsパスワードやPINを登録した場合は、忘れたときのために必ずWindowsパスワードやPINを控えてください。
- WindowsパスワードやPINを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

1 Windowsパスワードについて

Windowsにサインインするためのパスワードを、本マニュアルでは「Windowsパスワード」と呼びます。
管理者ユーザーのWindowsパスワードは、初めてパソコンを起動しWindowsセットアップを行う際に設定します。

Windowsパスワードの設定／変更方法

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする
2. ［設定］をクリックする
3. ［アカウント］→［サインイン オプション］→［パスワード］をクリックする
4. 画面の指示に従って、Windowsパスワードを設定／変更する

2 PINについて

Windowsパスワードの代わりに、PIN（暗証番号）を入力してWindowsにサインインできます。
PINを設定するには、あらかじめ、Windowsパスワードの設定を行っておく必要があります。

PINの設定／変更方法

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

3. ［アカウント］→［サインイン オプション］をクリックする

4. PINを設定／変更する

   ①［PIN（Windows Hello）］をクリックする
   ②画面の指示に従って、PINを設定／変更する

3 指紋認証を使う

＊指紋センサー搭載モデルのみ

「指紋認識（Windows Hello）」または「Windows Hello指紋認証」を使用すると、指紋センサーに指紋を読み取らせることで、Windowsにサインインできるようになります。
WindowsパスワードやPINの代わりに、指紋の情報で、本人であることを認証する機能です。

お願い **指紋認証の操作にあたって**

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 指紋センサーについて『取扱説明書 付録 1 ご使用にあたってのお願い』

- 登録できる指紋データは全ユーザー合わせて10本です。
- 電源を入れるときに指紋認識（Windows Hello）を行うよう設定することができます。
  指紋認証の操作を行う場合は、電源を入れるときと同じ位置で指の指紋を登録してください。
  登録のときと電源を入れるときとで指の位置が異なると、指紋認識（Windows Hello）で失敗することがあります。

1 指紋を登録する

指紋を登録するには、指紋を登録するユーザーアカウントに対して、WindowsパスワードとPINが必要です。

参照 設定方法「Microsoft アカウントのパスワードやPIN、またはWindowsパスワード（49ページ）」

1. **指紋を登録するユーザーアカウントでサインインする**

2. **［スタート］ボタン（ ）をクリックする**

3. **［設定］をクリックする**

4. **［アカウント］→［サインイン オプション］をクリックする**

5. **［指紋認識（Windows Hello）］→［セットアップ］をクリックする**

   ［Windows Helloへようこそ］画面が表示されます。

6. **［開始する］をクリックする**

   ［ユーザーを確認しています］画面が表示されます。

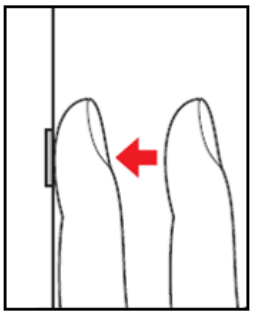
7. **［PIN］にPINを入力する**

   ［指紋センサーにタッチ］画面が表示されます。

8. 指紋センサーに指紋を読み取らせる

指紋は数回スキャンする必要があります。
［次は別の角度で行ってください］画面が表示された場合は、指の縁を読み取るために角度を変えて［すべて完了しました。］画面が表示されるまでスキャンしてください。
続けてほかの指紋を追加する場合は、［別の指を追加］をクリックしてください。

Memo **指紋センサーに指紋をうまく読み取らせるには**
指の腹を指紋センサー（電源スイッチ）の中央に当て、離してください。



9. ［すべて完了しました。］画面が表示されたら、［閉じる］をクリックする

Memo
- ［閉じる］をクリックして登録を終了後、ほかの指紋を追加する場合
  ①［サインインオプション］で、［指の追加］をクリックする
  ② 手順6 からの操作を繰り返す

2 指紋認証を行う

登録した指紋を指紋センサーに読み取らせることで、Windowsへサインインできます。

1. ロック画面（画面中央または左下に大きく日時が表示されている状態）やサインインを求められている画面で、登録した指紋を指紋センサーに読み取らせる

Windowsにサインインします。

ユーザーパスワードの代わりに指紋で認証を行う（起動認証／シングルサインオン）

起動認証とは、パソコンの起動時に、ユーザーパスワードの代わりに、指紋認証を使用できる機能です。
また、シングルサインオンを有効にすると、起動認証後にWindowsにも自動的にサインインすることができます。シングルサインオンは、起動認証時に使用したWindowsのアカウントで行われます。

1. ユーザーパスワードを登録する

参照 「ユーザーパスワードの登録（41ページ）」

2. 「dynabook セッティング」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook セッティング」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook セッティング］をクリックする

認証画面が表示されるので、ユーザーパスワードで認証を行ってください。

3. ［システムパスワード］の［起動認証設定］で、［起動認証は、コンピューター起動時にユーザーパスワードを入力する代わりに指紋で認証できるようにします。］にチェックを付ける

「変更した設定を反映するにはパソコンの再起動が必要です。」というメッセージが表示されます。

4. ［はい］を選択する

本製品が再起動され、起動認証が有効になります。

Memo

- 手順4で本製品の再起動を行うと、［dynabook セッティング］→［システムパスワード］→［起動認証設定］の［シングルサインオンは、起動認証後、認証が成功した指紋が登録されているWindowsのアカウントで自動的にサインインします。］が設定できるようになります。

お願い

指紋認証でサインインできない場合は

指紋認証でサインインできない場合は、指紋認証以外（PINなど）でサインインを行ってください。
指紋認証のエラーが続く場合は、指紋の登録をやり直してください。

3 指紋データを削除する

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを削除してください。指紋データの削除は、次のように行ってください。

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

3. ［アカウント］→［サインイン オプション］をクリックする

4. ［指紋認識（Windows Hello）］→［削除］をクリックする

   指紋データが削除されます。

お願い **指紋データの削除にあたって**

- 指紋データは、ユーザー（アカウント）ごとの削除が必要です。

4 顔認証を使う

＊顔認証センサー搭載モデルのみ

「顔認識（Windows Hello）」または「Windows Hello顔認証」を使用すると、顔認証センサーに顔の情報を読み取らせることで、Windowsにサインインできるようになります。Windowsパスワードや PINの代わりに、顔の情報で、本人であることを認証する機能です。

お願い 顔認証の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 顔認証センサーについて『取扱説明書 付録 1 ご使用にあたってのお願い』

1 顔の情報を登録する

顔の情報を登録するには、顔の情報を登録するユーザーアカウントに対して、Windowsパスワードと PINが必要です

参照 設定方法「Microsoft アカウントのパスワードやPIN、またはWindowsパスワード（49ページ）」

1. **顔を登録するユーザーアカウントでサインインする**

2. **［スタート］ボタン（ ）をクリックする**

3. **［設定］をクリックする**

4. **［アカウント］→［サインイン オプション］をクリックする**

5. **［顔認識（Windows Hello）］→［セットアップ］をクリックする**

   ［Windows Helloへようこそ］画面が表示されます。

6. **［開始する］をクリックする**

   ［ユーザーを確認しています］画面が表示されます。

7. **［PIN］にPINを入力する**

   顔認証センサーに映った画像が表示されます。

8. **顔認証センサーの正面に顔を向ける**

   参照 顔認証センサーの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

   顔認証センサーをまっすぐ見続けてください。
   ［すべて完了しました。］画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

9. **［すべて完了しました。］画面が表示されたら、［閉じる］をクリックする**

2 顔認証を行う

顔の情報を登録すると、顔認証センサーに顔を向けることで、Windowsへサインインできます。

1. ロック画面（画面中央または左下に大きく日時が表示されている状態）やサインインを求められている画面で、顔認証センサーの正面に顔を向ける

   Windowsにサインインします。

3 顔データを削除する

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した顔データを削除してください。
顔データの削除は、次のように行ってください。

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

3. ［アカウント］→［サインイン オプション］をクリックする

4. ［顔認識（Windows Hello）］→［削除］をクリックする

   顔データが削除されます。

3章 ワイヤレス WAN 通信の設定

＊ワイヤレスWAN機能搭載モデルのみ

ワイヤレスWAN通信を行うための設定について説明しています。

1 ワイヤレスWAN通信について

ワイヤレスWAN通信は、ご契約された通信事業者のサービスエリア内で、5G回線およびLTE回線がご使用いただけます。

1 ワイヤレスWAN技術基準適合について

本製品は、電波法に基づくW-CDMA方式携帯無線通信用陸上移動局、W-CDMA（HSDPA)方式携帯無線通信用陸上移動局、および5G/LTE用陸上移動局として、認証を受けております。
本製品の内部の改造を行った場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

2 使用国について

- 本製品のワイヤレスWAN通信は、日本国内の無線規格を取得しています。nanoSIMカードおよびeSIMが海外でご利用になれるご契約内容でも、海外電波法に抵触するおそれがありますのでご注意ください。また、電波法に抵触しない場合でも、海外ローミングによる高額な通信費用がかかるおそれがあります。十分ご注意ください。

3 nanoSIMカードおよびeSIMについて

- 本製品でワイヤレスWAN通信をご使用になるには、5G /LTE通信に対応したnanoSIMカードまたはeSIMの契約が必要です。改造したnanoSIMカードは、使用しないでください。

Memo

- サービスエリア、サービス内容やご利用料金などについては、ご契約された通信事業者へお問い合わせください。
- 無線通信用アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所でもっとも良好に動作します。
  アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。

参照 無線通信用アンテナの位置『取扱説明書 1章 1 各部の名称』

- 本製品のワイヤレスWAN通信は無線を使用しているため、トンネル・地下・建物の中など電波の届きにくい場所のほか、屋外でもサービスエリア外および電波の弱い場所では使用できない場合があります。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしのよい場所であっても、使用できない場合があります。
- 電波が強く、電波状態の表示が良好で、移動せずに使用している場合でも、通信が切断する場合があります。

2 ワイヤレスWAN通信を行うには

1 nanoSIMカードを使う場合

ワイヤレスWAN通信を行う場合、本製品にnanoSIMカードをセットします。
nanoSIMカードは、お客様の電話番号などの情報が記録されているICカード（SIMカード）です。
『nanoSIMカードに付属の説明書』もご確認ください。

⚠警 告

- **nanoSIMカードを取りはずしている場合は、カードを乳幼児の手の届かないところに保管する**
  誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万が一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

お願い

- nanoSIMカードのセット／取りはずしを行う際は、キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上に本製品を置いて作業を行ってください。
- nanoSIMカードのセット／取りはずしを行う際は、あらかじめデータを保存し、本製品の電源を切り、電源コードとACアダプターを取りはずしてください。
  データ消失、故障のおそれがあります。
- nanoSIMカードを本製品にセットする際は、無理な力を加えず、慎重に行ってください。
  本製品の動作が不安定になったり、nanoSIMカードが破損するおそれがあります。
- nanoSIMカードのIC部分（金色の部分）には触れないでください。静電気により、データ消失、故障のおそれがあります。

Memo

- nanoSIMカードの紛失、盗難、破損については、ご契約された通信事業者へお問い合わせください。

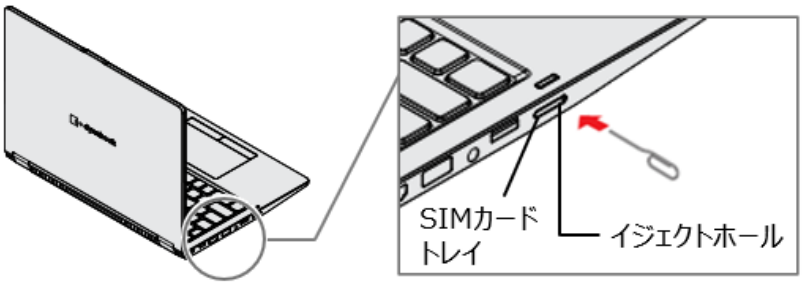
nanoSIMカードをセットする

⚠注 意
● クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する 先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

1. データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

2. 電源コードとACアダプター、その他のケーブル類を本製品から取りはずす

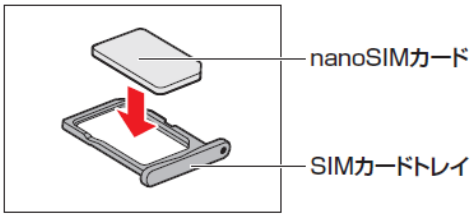
3. SIMカードトレイのイジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押す



SIMカードトレイが少し出てくるので、手で引き出します。

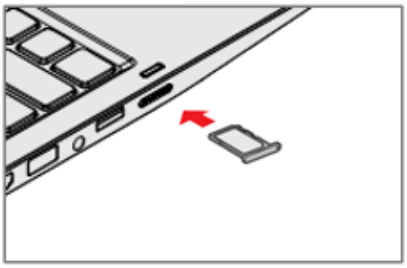
4. SIMカードトレイにnanoSIMカードをセットする

IC部分（金色の部分）を下に向け、角が欠けている部分を手前にして、SIMカードトレイにセットしてください。
nanoSIMカードは、前後や表裏を確認してください。イラストと異なる向きでセットしないでください。



5. nanoSIMカードがSIMカードトレイに正しくセットされていることを確認して、SIMカードトレイをゆっくり差し込む

nanoSIMカードが正しくセットされていないと、ワイヤレスWAN通信はできません。



nanoSIMカードを取り出す

1. データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る
2. 電源コードとACアダプター、その他のケーブル類を本製品から取りはずす
3. SIMカードトレイのイジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押す

   SIMカードトレイが少し出てくるので、手で引き出します。
4. nanoSIMカードを取り出す
5. SIMカードトレイをゆっくり差し込む

使用するSIMの設定を切り替える

初期設定はeSIM（eSIMまたはSIM 2）になっていますので、nanoSIMカードを使う場合はnanoSIMカード（SIM 1）に切り替えてください。

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

［設定］画面が表示されます。

3. ［ネットワークとインターネット］をクリックする

4. ［携帯電話］をクリックする

5. 使用するSIMの設定を変更する

①［このSIMカードの携帯データネットワークを使う］を［SIM 1］に設定する

(表示例)

2 eSIMを使う場合

eSIMでワイヤレスWAN通信を行う場合は、次の手順を実行してください。
また、eSIMでワイヤレスWAN通信をご使用になるには、通信事業者とeSIMの契約が必要です。

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

［設定］画面が表示されます。

3. ［ネットワークとインターネット］をクリックする

4. ［携帯電話］をクリックする

5. 使用するSIMの設定を確認する

①［このSIMカードの携帯データネットワークを使う］が［eSIM］または［SIM 2］になっていることを確認する
［SIM 1］になっている場合は［eSIM］または［SIM 2］に設定する

(表示例)

6. 通信事業者から提供された方法でeSIMプロファイルをダウンロードする

①［携帯電話］の［その他の携帯ネットワーク設定］の下にある［eSIMプロファイル］を開く
②通信事業者から提供された方法でeSIMプロファイルのダウンロードを行う

7. 設定画面からeSIMプロファイルの使用を開始する

①［携帯電話］の［その他の携帯ネットワーク設定］の下にある［eSIMプロファイル］を開く

②［携帯データネットワークのプロファイル］の下に表示される、ダウンロードしたeSIMプロファイルをクリックし、表示される［使用］ボタンをクリックする

(表示例)

③eSIMプロファイル名の下に［アクティブ］と表示されることを確認する

(表示例)

3 無線通信機能を有効にする

ワイヤレスWAN通信を行う場合、無線通信機能をONに切り替えてください。

⚠警 告

- **植込み型医療機器（心臓ペースメーカー等）を装着しているかたは、植込み型医療機器の装着部位から15cm以上離す**
  電波により植込み型医療機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、航空機/医療用の電子機器に影響を与えることがあるので、無線通信機能および各種設定を無効にしたうえで、パソコンの電源を切ってください。
  - 無線通信機能は、次の手順でOFF にしてください。
    ①通知領域の または アイコンをクリックする
    ②［機内モード］をクリックして、オンに切り替える
    オンになると、通知領域に アイコンが表示されます。
  - パソコンが自動的に復帰することがあるため、スリープや休止状態にしないでください。
  - 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するようなソフトウェアを入れた場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
    または、自動的に起動するような下記の設定をした場合も、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
    Wake-up on LAN
    Wake-up on LAN on Battery
    Power on by AC

参照 『BIOS編　2章 設定項目 3 Power Management』

  - ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

参照 「パネルオープンパワーオンを設定する（39ページ）」

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

［設定］画面が表示されます。

3. ［ネットワークとインターネット］をクリックする

4. ［機内モード］が［オフ］であることを確認する

①［機内モード］が［オン］になっている場合は、［オフ］にする

［機内モード］を［オフ］にすると、無線通信機能がONになります。

5. ［携帯電話］を［オン］にする

①［携帯電話］を［オン］に設定する
［オフ］になっている場合は、［オン］にしてください。
［オン］にすると、ワイヤレスWAN機能がONになります。

（表示例）

以降の設定は、「インターネットに接続する（66ページ）」を参照してください。

4 インターネットに接続する

本製品におけるインターネット接続に関する設定を行います。

1 接続方法

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

［設定］画面が表示されます。

3. ［ネットワークとインターネット］をクリックする

4. ［携帯電話］をクリックする

［携帯電話］画面に、ネットワーク名と電波状態が表示されます。

5. ネットワークに接続する

①ネットワーク名の下に表示されている［Windowsで接続を維持する］のオン／オフを、目的に応じて設定する
自動的に接続したい場合は、［Windowsで接続を維持する］を［オン］に設定してください。
自動的に接続したくない場合は、［オフ］に設定してください。

（表示例）

接続が完了すると、「接続済み」と表示されます。

（表示例）

2 接続の切断方法

［携帯電話］画面で、［携帯データネットワーク］を［オフ］に設定してください。切断されることを確認してください。

3 接続設定の確認方法

［携帯電話］画面で、［携帯電話会社の設定］をクリックしてください。設定内容を確認してください。

5 インターネットAPNの設定方法

インターネットAPNの設定方法について説明します。

1. ［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

［設定］画面が表示されます。

3. ［ネットワークとインターネット］をクリックする

4. ［携帯電話］をクリックする

5. APN設定画面を表示する

①［携帯電話］画面に表示されている［携帯電話会社の設定］をクリックする
②［APNを追加］をクリックする

（表示例）

6. APNを設定する

プロファイル名、APN、ユーザー名、パスワード、サインイン情報の種類、IPの種類、APNの種類を入力後に保存すると、APNの設定が保存されます。

Memo
- ［APNの種類］には、［インターネットおよびアタッチ］を選択してください。
  ［インターネットおよびアタッチ］を選択できない場合は、［インターネット］を選択してください。

（表示例）

3 通信ができないときは

通信ができないときは、次のような流れで確認してください。

nanoSIMカード	eSIM
使用するSIMの設定を確認する 参照 「使用するSIMの設定を切り替える（61ページ）」	**使用するSIMの設定を確認する** 参照 「eSIMを使う場合（62ページ）」
nanoSIMカードが正しくセットされていることを確認する 参照 「nanoSIMカードをセットする（59ページ）」	**eSIMプロファイルがアクティブになっていることを確認する** 参照 「eSIMを使う場合（62ページ）」

無線通信機能を有効にする
参照 「無線通信機能を有効にする（64ページ）」

通信圏外でないことを確認する
参照 「インターネットに接続する（66ページ）」

インターネットの接続設定を確認する
参照 「インターネットに接続する（66ページ）」

インターネットのAPN設定を確認する
参照 「インターネットAPNの設定方法（67ページ）」

通信事業者に確認する

4 ワイヤレスWAN通信に関する注意

本製品について

本製品の取り扱い・設定などのご相談は、dynabook あんしんサポート 使いかた相談窓口にお問い合わせください。

ワイヤレスWAN通信の設定について

本製品のリカバリー（再セットアップ）を行った場合は、無線通信機能やインターネットのAPNに関する設定がご購入時の状態に戻ります。

本製品の修理時のご注意

- 修理の際にお客様からお預かりできるのは本製品のみです。
  nanoSIMカードはお手元に大切に保管してください。
  eSIM対応モデルの場合は、修理内容によりご契約された通信事業者と別途手続きが必要になる場合があります。事前に通信事業者にご確認ください。
- 修理期間中も、ご契約された通信事業者が提供する各種サービス料金は発生します。ご了承ください。

GPSについて

- GPS機能搭載モデルでは、GPSが使用できます。
- GPSや測定場所の状態により、現在地が表示できない可能性があります。現在地の情報は、端末側から位置情報を得ており、その情報の精度によって現在地が検出できない可能性があります。具体的には、以下のような場所や状態では、現在地がずれたり、検出できない可能性があります。
  - 建物の中や直下
  - かばんや箱の中
  - 密集した樹木の中
  - アンテナ前面部に障害物（人や物）がある場合
  - 地下やトンネル、地中、水中
  - ビル街や住宅密集地
  - 高圧線の近く
  - 大雨、雪などの悪天

5 ワイヤレスWAN通信を使用しなくなった場合

廃棄／譲渡（売却を含む）などで本製品を使わなくなったとき、または本製品に搭載されているワイヤレスWAN通信を使用しなくなったときは、以下の対応が必要です。

1 nanoSIMカードを使用していた場合

nanoSIMカードの解約や返却が必要です。解約や返却については、ご契約された通信事業者へお問い合わせください。

2 eSIMを使用していた場合

eSIMプロファイルの削除が必要です。

お客様が通信事業者とeSIMの契約を行うと、契約者情報などを含むeSIMプロファイルが通信事業者から提供されます。

OSの機能によるPCリセットでは、このeSIMプロファイルは削除されますが、本製品を初期状態に戻した場合や、dynabook Maintenance Utilityを使ってハードディスクの内容の消去を行った場合は、eSIMプロファイルは削除されずそのままワイヤレスWAN通信モジュール内に保持されます。
本製品の廃棄、リサイクル等を行う場合はeSIMプロファイルの削除を行ってください。
eSIMプロファイル削除後の該当契約の継続使用またはeSIMプロファイル再発行については事前にご契約の通信事業者にお問い合わせください。
（eSIMプロファイルの再発行時には通信事業者により手数料が発生する場合があります）

eSIMプロファイルの削除方法

1. ［設定］-［ネットワークとインターネット］-［携帯電話］を開き、［その他の携帯ネットワーク設定］-［eSIMプロファイル］を開く

2. ［その他のeSIM設定］の［eSIMのリセット］内の［リセット］ボタンを押し、以降画面の指示に従う

(表示例)

6 比吸収率（Body SAR）について

この製品は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。

この製品は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準*1および、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR：Specific Absorption Rate）で定めており、この製品に対するSARの許容値は2.0W/kg（手首から先を除く手足は4.0W/kg）です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。

ワイヤレスWAN機能を使用中は、この製品を身体（手首から先を除く）から5mm以上（5Gの場合は10mm以上）離して使用してください。このことにより、この製品は国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合します。

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記のホームページをご参照ください。

● 総務省のホームページ
https://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm

● 一般社団法人電波産業会のホームページ
https://www.arib-emf.org/01denpa/denpa02-02.html

● 世界保健機関（英文のみ）
https://www.who.int

＊1 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）で規定されています。

202607